

決勝卓ドキュメント

●東1局0本場
先崎(東家)が2600オール(リーチ・ピンフ・ツモ・ドラ1)をツモアガリ。

●東1局1本場
原(西家)が1000点・2000点(リーチ・ツモ・裏ドラ1)をツモアガリ。

●東2局0本場
馬場が11巡目リーチ。先崎も11巡目リーチ。手が詰まった長村は、ダマテンの原(南家)に5200点(タンヤオ・ドラ2)を振り込み。

ロン

●東3局0本場
原(東家)が12000点(リーチ・一発・タンヤオ・ピンフ)を馬場からロンアガリ。

ロン

●東3局1本場
原(東家)が2000点(タンヤオ)を先崎からロンアガリ。

★持ち点(原がダントツ)
原浩明(48200点)・先崎学(27400点)・長村大(16100点)・馬場裕一(8300点)

●東3局2本場
長村(北家)が3000点・6000点(リーチ・一発・ツモ・裏ドラ2・裏ドラ1)をツモアガリ。フリテンリーチの一発ツモ。

ツモ

●東4局0本場
先崎(南家)が8000点(リーチ・一発・ドラ2)を先行リーチの馬場からロンアガリ。

ロン

●南1局0本場
長村(南家)が8000点(ドラ3)を原からロンアガリ。

ポン

原からポンして切り。

★持ち点(長村が逆転に成功、トップ目)
長村大(36700点)・原浩明(34000点)・先崎学(33200点)・馬場裕一(▲3900点)

●南2局0本場
長村(東家)が1500点(食いタンヤオ)を原からロンアガリ。

●南2局1本場
長村(東家)が2800点(ピンフ・ドラ1)を原からロンアガリ。

●南2局2本場
原(南家)が1300点(リーチ)を長村からロンアガリ。

●南3局0本場
流局。原と長村の2人テンパイ。

●南3局1本場
長村(北家)が1000点(ドラ)を原からロンアガリ。

●南4局0本場
流局。先崎のリーチ、1人テンパイ。

★持ち点(終了時)
長村大(42300点)・先崎学(33700点)・原浩明(28400点)・馬場裕一(▲6400点)

一度沈んでから回復する。そこに精神の強さを見た!!



馬場から親マンをアガリ、断トツになった原(東3局)。



決勝



フリテンリーチを一発でツモった長村のアガリ(東3局2本場)。



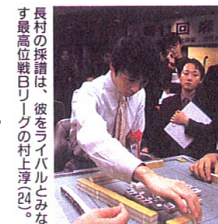
口火を切ったのは先崎の2600オール(東1局)。



一打の緩みも見逃してもらえないハイレベルな決勝戦となった。



原に親マン(東3局)、先崎にマンガン(東4局)を振り込んだ(東4局)バビ。



長村の探偵は、彼をライバルとみなす最高位戦日ツリーの村上(24)。

決勝—麻雀の小宇宙

デジタルに打っても不思議な縁が発生する。それが麻雀というゲームの宿命なのだろうか。

東4局15巡目、長村の手が止まった。馬場と先崎からリーチが入っている。自分の手牌はアガリに遠く、けれども安全牌がない。

先崎のリーチ宣言牌を見て、ここから長村は切った。それがリーチしていなかった原に振り込み。

次局東3局、原は馬場から親マンをアガリ、断トツとなる。

東3局2本場、長村に大きな分岐点が訪れた。13巡目にテンパイしたのだが、捨牌にフリテンになっている。

状況としては先崎がを、ソーズのホンイツでテンパイ気配を見せている。

裏ドラが増え、リーチするには絶好のチャンス。テンパイを組み替え



東大会4位の穴澤晃一を、MONDO2のカメラが追う。



“史上最強プロ”五十嵐毅は苦戦しながらも6位。



予選



実力はピカイチ、前半2回で予選を通過した馬場裕一。



前半にはトップを走っていた読者大会2位・永田靖之。



大会運営は最高位戦スタッフによって行われた。

後半戦の追い込みこそ実力の証!!

第11回麻雀最強戦予選成績

順位	氏名	所属	ポイント
1	長村 大	最高位戦C2リーグ	+262.2
2	馬場裕一	最高位戦(休場中)	+133.8
3	先崎 学	将棋棋士	+87.0
4	原 浩明	麻将連合認定プロ	+86.8
5	玄田哲章	声優	+81.0
6	五十嵐毅	最高位戦Aリーグ	+75.0
7	永田靖之	会社員	+51.9
8	はまのらま	漫画家	△21.8
9	荒 正義	プロ連盟A1リーグ	△40.8
10	加藤勝久	プロ連盟A1リーグ	△50.8
11	伊藤優孝	プロ連盟A1リーグ	△55.1
12	城島清貴	麻将連合	△70.6
13	伊東大作	学生	△83.3
14	近藤良彦	団体職員	△105.8
15	岸上 寛	漫画家	△107.4
16	穴澤晃一	医師	△241.9



卓上の安打製造機・前最強位の荒正義は9位に終わった。



4トップの快速筆でトップ通過した長村大。

プロの強さを見せた予選結果

アマの爆発から始まり、プロが上位に集まる結果となった。

最強戦はプロVSアマをテーマとしたシステムになっている。読者漫画家、著名人の3大会から勝ち残ったアマ8名を、プロ予選で選ばれた8名が迎え撃つ。

2回戦までトップを走ったのは、1回戦で8万7200点の特大大ツブを取った読者大会2位の永田靖之だった。彼は自在な打ち回しを見せながら、後半沈んでしまう。

その反対に3回戦までマイナスイながら、後半2連勝で決勝に進出したのが馬場裕一だ。

予選を終えて、決勝進出者4名のうち3名がプロという結果となった。プロが強さを証明し、上位を占めたといえる。

そのなかで、著名人大会から将棋棋士の先崎学が3位、声優の玄田哲章が5位に入った。その健闘を称えていこう。